

シャープ (株)

家電は
ともだち「スイート♥スマートホーム」が描く
ホームネットワークの将来像

シャープが掲げるクラウド連携型ホームネットワークシステム「スマート♥スイートホーム」は、家電同士の単なる横のつながりによる利便性の追求にとどまらず、将来における人と家電との新たな「共生」を描いた構想だ。擬人化されてしゃべる家電たちと暮らす、新たな未来。そのUI特性が持つのは、使いやすさの向上だけではない可能性を感じさせる。

「スマート♥スイートホーム」の特長を一言で紹介するならば、「ココロを持つ家電たちとの共生」である。

あえてシステムチックに説明すると、シャープの開発した「ココロエンジン」を積んだ「しゃべる家電たち」がネットワークによって相互に連携し、日々の生活を支えてくれるというもの。さらにクラウドをバックボーンに据えることで、よりリアルタイムな生活サポートを実現している。

具体的には、朝、冷蔵庫を開けるとあいさつとともに冷蔵庫内の在庫状況を教えてくれたり、その在庫と季節などに基づいて電子レンジがお勧め料理を示してくれたり、エアコンが外気温や天気に合わせて最適温度を教えてくれたり、といったイメージ。家電側からの情報提示の中心に「声」を使っていることが大きな特長となっている。

その狙いは「家電を道具としてのみ使うのではなく、人との共生関係を構築していただくことで新たな価値を見出すこと」（新規事業推進本部クラウド事業推進センター所長・米田旬氏）。利便性だけではなく感情的な豊かさを追求した形が「スマート♥スイートホーム」というわけだ。

「COCOROBO」は
家族の一員？

このコンセプトにおいて、現時点でも重要な先役を務めているのがロボット家電「COCOROBO」（ココロボ）だ。

カテゴリとしては近年はやりの自動お掃除ロボットだが、すでに「スマート♥スイートホーム」コンセプトの一部が組み込まれている。声によるコミュニ

ケーション能力、そして他の家電との連携だ。

そもそも、自動掃除機という商品自体、メーカー側の意図を問わず家庭内のベットのポジションを得ていた節がある。事実シャープも、修理依頼時において「大事な家族の一員」的な関係性を感じさせられたことも多かったそうだ。

「COCOROBO」では、その本来の家電ならではの特性を強く意識し、実際に家族の一員的な要素を強めている。声の呼び掛けに声で対応してくれることに加え、外出先からスマホ等でコントロールする際にも擬人化の要素が明確に示された。

シャープは、スマホ向け専用アプリとして家族向けのコミュニケーションサービス「ココロボ〜ド」をリリースしている。「ココロボ〜ド」の中でCOCOROBOを擬人化し、指示するにあたって「命令ではなくお願い、というイメージ」（新規事業推進本部クラウド事業推進センターホームクラウド開発部部長・白川淳一氏）を表現することで、家族の一員という雰囲気を高めている。

なお、他の家電との連携については赤外線を採用。帰宅直前にエアコンや空気清浄機を作動させたり、照明を入れたりすることができる。また、カメラ撮影機能も搭載しており、外出先から自宅の様子を写真で確認するといったことも可能となっている。COCOROBOを含め、今後登場するスマート♥スイートホームに対応する家電製品は、「ココロボ〜ド」を使って操作をお願いできるそうだ。

音声によるUIの持つ意味

これらシャープの取り組みにおいて注目すべきは、



スマホのアプリ画面（ココロボ〜ド）

音声による家電へのアクセスを機能面での大きな特長としながら、実際の操作については必ずしも音声指示に頼り過ぎていないことにある。

「ココロボ〜ド」の例のように、単に指示を出すだけであればスマホ、あるいはシャープが高いシェアを持つ液晶テレビ「AQUOS」あたりを中心に据えるのが合理的。実際、システムとしてはそれらがハブの役割を担うことになるだろう。

つまり、家電それぞれが「しゃべる」ことの意味は、必ずしも使い勝手向上という狙いだけではない、ということ。それが「人と家電との共生」の意味するところ。

UIとは何か、新たな一面を教えてくれる取り組みだ。

